

## No.40 自動車学校と連携した交通安全教室による危険回避能力の育成

- 管内 日高管内
- 分類 通学路の点検 交通安全教室 安全教育 その他（ ）
- 教育課程 教科（ ）科 道徳 総合的な学習の時間 特別活動
- 校種 小学校（低） 小学校（中） 小学校（高） 中学校 高等学校
- 取組のポイント

- 自動車学校職員による自転車の安全な乗り方等の交通安全講話の実施
- 自動車教習コースにおける走行中の自動車の死角や自転車の安全運転等の実技講習の実施

### 取組の実際

ねらい

- 実技講習を通して交通安全に対する知識と技能を身に付けるとともに、交通安全について日常の自らの行動等を振り返る機会を設定し、危険を予測したり、回避したりする能力の育成を図る。

### 内 容

#### 自動車学校と連携した交通安全教室の実施

本校では、家庭、地域、関係機関・団体等と連携した安全教育の取組の一つとして、自動車学校を会場とした交通安全教室を実施している。

#### 交通安全講話

自動車学校職員から自転車での事故発生状況や事故を未然に防ぐための注意について講話を受けた。特に、自転車に乗る際には歩行者と接触し、けがをさせることのないよう、歩行者の安全に配慮して自転車に乗ることが大切であることに重点を置いた。

#### 危険を回避する能力を身に付けるための体験的な学習

自動車学校の教習コースにおいて、生徒が運転席に座り、対向右折車に対する死角や走行中の自動車から見える自転車の様子など、自動車の運転手の目線で確認させる。

また、生徒が自転車に乗って「駐車車両の側方通過」や「一時停止場所での完全停止と安全確認」などを体験することで自転車の安全運転の方法について学ぶことに重点を置いた。



【右折車に対する死角体験】

- 生徒の感想
  - ・自転車に乗っている人が、場合によっては事故の加害者になってしまうことが分かった。歩行者に迷惑をかけないように自転車に乗ろうと思う。
  - ・自動車を運転する人からは、自転車に乗る人が自動車の横から突然出てくるように見えたことが、とても危ないと思った。自転車は、自動車を運転する人から見えにくいということを意識して自転車に乗ろうと思う。

### 成果と課題

- 道路交通法について説明を受けたことにより、自転車に乗ることの責任を理解するとともに、自転車の乗車マナーの向上が図られた。
- 自動車の運転手の死角について自ら体験して確認したことにより、事故を未然に防ぐための危険を回避する能力を身に付けることができた。
- 家庭・地域・関係諸機関・団体と連携した安全教育の更なる充実を図るため交通安全教室の内容の見直しや改善について、継続的に取り組む必要がある。